

英語のパラグラフ・ライティングの実践報告

三浦 優生, 中山 晃, 岩田 真理愛, 米山 知歩

愛媛大学教育・学生支援機構

Report on the Practice of Paragraph Writing in English

Yui MIURA, Akira NAKAYAMA, Maria IWATA, Chiho YONEYAMA

Institute for Education and Student Support, Ehime University

はじめに

愛媛大学では、英語のパラグラフ・ライティングを、1回生に対して、第3クォータ（9月下旬から12月上旬の約8週間）に、「英語Ⅲ」（1単位）という科目名で、共通教育の必修科目として、クォータ制が導入された平成28年度から令和6年度まで提供してきた。今回、令和7年度から新しい英語教育プログラムが開始されることに伴い、この「英語Ⅲ」が廃止され、パラグラフ・ライティングを指導する科目が整理・統合されるため、これまでの実践してきた内容と成果をまとめることにした。本報告では、特に、授業内容の他、学生が当該科目を受講する前と後で、どのような知識を修得し、どのような技能を身につけることができたのか、授業期間中に実施したアンケート調査とその結果、及び実際に学生が記述した英文パラグラフの成果物から、本学の「英語Ⅲ」の授業を評価・検討するものである。なお、本稿では、どのような内容を、どのように指導してきたのか、という指導記録の報告に焦点を当てるため、アンケート調査による自己評価の結果と、実際のライティングの試験の結果との比較については言及しない。

授業内容

平成28年度以降、英語教育センターでは、独自開発・製本のライティング用の教科書（教科書名：Writing Collaboratively）を作成し、下記に示すような授業スケジュールで授業を行ってきた（表1）。15回の授業を通して英文によるパラグラフ・ライティングが身につくように構成されている。特に、15回の授業の内、期末試験を除く

と8回、パラグラフを作成する機会があり、英文パラグラフを作成するための十分な練習の機会を提供できていると言える。

表1. 授業内容と課題

回	授業内容	課題等 (トピック)
1	パラグラフの作成手順とパラグラフ構造	ブレ・テスト (任意のトピック)
2	パラグラフのフォーマット	
3	パラグラフ内の結束性と一貫性	パラグラフ作成 (自己紹介)
4	主題の絞り方と文構造	
5	トピック文の作成ルールと演習	パラグラフ作成 (大学生生活)
6	支持文の作成ルール	
7	支持文の作成演習	パラグラフ作成 (好きな場所)
8	詳細事項文の作成ルール	
9	詳細事項文の作成演習	パラグラフ作成 (流行)
10	結語文の作成ルール	
11	結語文の作成演習	パラグラフ作成 (グローバル化)
12	パラグラフ作成演習①	パラグラフ作成 (性格)
13	パラグラフ作成演習②	パラグラフ作成 (影響力のある人)
14	比較・対照パラグラフとは？（発展）	
15	復習と期末試験	ポスト・テスト

授業で扱ったパラグラフの形式（種類）

当該授業で扱うパラグラフの形式（style）についてであるが、意見を述べる形式のパラグラフ（opinion paragraph）や出来事を時系列でまとめる形式のパラ

グラフ (memorial / personal event paragraph), さらに場所や物を描写する形式のパラグラフ (description paragraph) の3種類とした。この他にも, 一般的には原因と結果をまとめる形式のパラグラフ (cause and effect paragraph) や比較・対照をまとめる形式のパラグラフ (compare and contrast paragraph) などがあるが, 15回と限られた授業回数の中でかつ大学初年次の共通教育の英語で扱うには, 分量が多くなってしまったため, 以上の3つの形式のパラグラフの理解のための講義とライティング・トレーニングをすることにした。表1に示しているように, 14回目の授業で, 発展的に比較・対照パラグラフを扱っているが, ここでは, 学生にそれまで学んできたパラグラフ以外の形式も存在することを知識として学んでもらうためであり, 実際に比較・対照パラグラフを書くトレーニングは行っていない。

指導方法及び教授言語

英語教育センターが提供する授業は, 基本的に「授業中の活動は英語で行う」という指導方針になっていたこともあり, パラグラフ・ライティングの形式や書き方のルール等, 講義形式で説明も英語で行った。ただし, 英語での説明では理解できない学生も多くいたため, 日本語での簡単な補足説明の他, Moodle® など学習管理システムを用いて, 解説動画や pdf 資料を配布し, 授業外学習時間の確保に努めつつ, 学習内容及び情報保障を行った。

授業の流れ

教科書の各単元 (ユニット) は, おおむね次のような構成になっていた。

1. トピックと単元の到達目標の確認
2. トピックに関する質問 (ペアワーク)
3. トピックについてブレイン・ストーミング
4. マインドマップの作成
5. 形式やルールについての学習 (講義)
6. ドラフト (第一稿) の作成
7. ドラフトの見直し (ペアワーク)
8. 提出稿の作成

ペアワークと講義, さらに個別作業など, 授業が単調にならないように様々な活動を取り入れて授業を展開してきた。

クラスサイズ

一クラスの最大受講者数を35名と設定していたが, 同一時間割内での教員数にも限りがあったので, 学部毎の編成でかつ, 同一学部内での一クラスの人数に偏りが出ないように, 例えば, ある学部では, 一クラスを30名ずつに調整

するなどすることもあった。

試験の形式と辞書の使用

期末試験の形式は, 試験当日に与えられたトピックに関して, パラグラフを作成するものであった。なお, 試験中の辞書の使用は可能とした。英語のライティングの試験で辞書の使用を認めている大学は少ないかもしれないが, 様々な議論の末, 許可するに至った。主な理由は以下の通りである。

- 教員も実生活において英語で文章を作成する際には, 辞書を用いているから。
- 学生が卒業後にも使えるライティングのスキルを指導すべきであるから。
- 英文の構成をルールに即して考えるスキルと誤字脱字やスペルミスから文法事項まで, 文章校正のステップを指導すべきであるから。
- 10年前と比較して, オンライン辞書の精度が AI を組み込んだ翻訳アプリケーションへと格段に向上していることから, このアプリケーションを使うことが実社会における英語使用の前提になりつつあるから。

これらの理由を踏まえ, 授業では, オンライン辞書も含め, その利活用にも触れながら指導し, 期末試験での利用も認めることにした。

ルーブリックによる評価

ライティングのスキルは, スピーキングのスキルとあわせて産出系スキルと呼ばれる。その他の語学の4技能と言われる要素のリーディングとリスニングは, 書かれている情報や話されている情報を処理することに視点が置かれるため受容系スキルと称されるが, ライティングやスピーキングといった産出系スキルは, 自分が持つ情報を書いたり, 話したりするなど, 情報を発信することに視点が置かれるスキルだからである。

受容系スキルの能力, すなわち情報処理のスキルを測定する場合には, 正解のある選択式の試験問題を用いることが一般的である。しかしながら, 産出系スキルの能力の測定については, 問いに対する解答が, 例えば, ライティングであれば学期末に課題として提出するレポートのように一定のまとまりのある文章であったり, スピーキングであれば口頭での英会話であったり, そのスキルに対応した形でパフォーマンスとして表出される。実は, 任意のパフォーマンスを一義的に正解と決定することは困難であり, そのパフォーマンス自体が内容の自由度の高さから, 正誤問題のように, 正解を明確に設定することができないので, あらかじめルーブリックなどで, どのようなことができたら, どの程度の得点や評価を与えるのかということを決めてお

かなければならない。すなわち、正解ではなく、決められた指標をもとに評価をすることになる。

到達目標のモデルとなるパラグラフ

英語Ⅲの授業を通して、最終的に書けるようになってほしい英文パラグラフのモデルを以下に示す。トピックは、「私のお気に入りの場所 (My favorite place)」で、パラグラフのタイトルは「素敵な街の松山 (The Wonderful City Matsuyama)」である。

“I never want to leave wonderful Matsuyama city. The first reason is that the city is just the right size for me. For example, the city is compact enough to conveniently and easily access public services such as the city hall, the post office, and shopping arcades. Second, Matsuyama is located in the west part of Shikoku Island. In fact, we can enjoy local specialties such as *Nabeyaki Udon*, a Japanese traditional noodle, *Jakoten*, a fried fish paste loaf, and *Tai Meshi*, rice with sea bream. Finally, there are so many fun things to do in the city. Indeed, watching the Mandarin Pirates baseball team play at Botchan Stadium is really entertaining all through the year. In short, I'll probably live in Matsuyama forever.” (124 words, 教科書p.78から抜粋)

パラグラフは、8文で構成されている。第1文は、トピック文で、第2文が支持文、第3文が詳細事項文となり、この第2文と第3文が一組となり、第1文で書かれた筆者の意見や主張の理由の1つとなる。以下、第4文と第5文が一組で2番目の理由となり、第6文と第7文が同様に一組で3番目の理由となる。第8文は、結語文として、このパラグラフをまとめる文となっている。

8文という分量が多いか少ないかという議論は担当する教員間でも議論があったが、上記のように構造化されたパラグラフを英文で作成するためには、期末試験までの14回で丁寧な指導する必要があることをほぼすべての教員が経験的に理解していたこともあり、この到達目標は、令和6年度まで引き継がれることとなった。

調査

2023年度第三クォータの「英語Ⅲ」の授業の内、理系学部 (A学部) と文系学部 (B学部) から1クラスずつ選び、選出されたクラスの学生に本研究への参加同意をとり、調査に参加してもらった。調査は、第1回目の授業と第14回目の授業で行い、内容としては、授業で扱ったパラグラフ・ライティングの主要6項目についての理解度の自己評

価 (事前・事後アンケート) と、第1回目を実施したブレ・ライティング課題及び第14回目で実施したポスト・ライティング課題で提出されたパラグラフで使用された単語数の比較であった。

成果

事前・事後アンケート

授業を通して、どのような学びがあったかを知るために、主要な学習項目について学生の主観的な自己評価を行った。本稿で報告する主要な学習項目は、下記の6項目である。

構成要素 (4項目)

- トピック文 (topic sentence)
- 支持文 (supporting sentence)
- 詳細事項文 (detail sentence)
- 結語文 (concluding sentence)

パラグラフ構造 (2項目)

- 結束性 (unity)
- 一貫性 (coherence)

これらの6つの内、最初の4項目は、パラグラフ・ライティングの構成要素 (文) であり、残りの2つは、内容 (パラグラフ構造) にかかわる項目である。以下、それぞれの項目について、授業の受講前と後で、どの程度理解することができたのか、5段階の自己評価の結果をまとめることにした。

トピック文 (topic sentence)

トピック文は、筆者の意見を含み、そのパラグラフの内容を1つの主題に焦点化させる役割がある。トピック文がルールに沿って書かれていないと、その後続く構成要素の各文の内容が定まらず、論旨が散漫になるため、丁寧な指導を要する項目である。なお、学生の中には、高等学校等での指導で、英検などの外部試験の準備のためにパラグラフ・ライティングの基礎をすでに学んでいる者もいる項目である。事前・事後の自己評価の結果は表2の通りである。

A学部においては、受講前は、「まったく聞いたことがない」を含め、内容を知らない学生が17人中7名と半数近くいたが、受講後は、17人全員が、トピック文の内容を理解し、少なから他者に説明することができると自己評価した。B学部では、27名中1名が内容を知らないと回答したが、A学部同様に、受講後は全員が少なから他者に説明できるレベル以上の自己評価をした。

表2. トピック文の書き方の習得についての自己評価 (度数分布)

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており, その内容を他者 (学生) に説明することができる。	2	15	2	18
4. 内容をある程度理解しており, その内容を他者 (学生) に少し説明することができる。	2	2	13	9
3. 聞いたことがあり, 多少は内容を知っているが, 他者 (学生) に説明することはできない。	6	0	11	0
2. 聞いたことはあるが, 内容を知らない。	4	0	1	0
1. まったく聞いたことがない。	3	0	0	0

支持文 (supporting sentence)

支持文は, トピック文内の筆者の意見や主張がなぜ正しいのか, その理由を読者に伝える役割がある。パラグラフの展開の方法としては, 具体的で詳細な情報を読者に伝える前に, トピック文内でそう考える理由を読者に伝えるという重要な役割を果たす。トピック文同様に, 支持文の学習は, ある程度, 大学入学以前に高等学校等で学んでいる項目である。事前・事後の自己評価の結果は表3の通りである。

A学部においては, 17名中7名が, 受講前は「まったく聞いたことがない」と報告しており, 残りの学生も聞いたことがあるが, 説明することができるほど理解はしていないという結果であった。B学部においても, 27名中17名が, 受講前は, まったく聞いたことがない (2名) を含め, 説明することができないと回答している。しかしながら, 受講後は, 両学部とも全員が, 「少し説明することができる」と回答した。

表3. 支持文の書き方の習得についての自己評価 (度数分布)

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており, その内容を他者 (学生) に説明することができる。	1	14	2	19
4. 内容をある程度理解しており, その内容を他者 (学生) に少し説明することができる。	0	3	8	8
3. 聞いたことがあり, 多少は内容を知っているが, 他者 (学生) に説明することはできない。	8	0	14	0
2. 聞いたことはあるが, 内容を知らない。	1	0	1	0
1. まったく聞いたことがない。	7	0	2	0

詳細事項文 (detail sentence)

詳細事項文は, 支持文で言及された理由に対して, 具体的な経験や証拠, その他の事実 (名称や数量) を用いて, より多くの情報を読者に与えるという役割がある。書き出しの表現としては, 日本語の「例えば」に相当する表現 (For example, For instance, As an example of that) を用いるなどして, 直前の支持文で書かれた理由に, 過去の経験や

事実に基づいて, 簡潔にエピソードや説明を付加する文である。事前・事後の自己評価の結果は表4の通りである。支持文とあわせて指導される内容ではあるが, 両学部の学生ともに, 「説明することはできない」レベル以下の回答が受講前は多かったが, 受講後は両学部とも全員が, 「少し説明することができる」レベル以上の回答となった。

表4. 詳細事項文の書き方の習得についての自己評価（度数分布）

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており、その内容を他者（学生）に説明することができる。	1	14	2	21
4. 内容をある程度理解しており、その内容を他者（学生）に少し説明することができる。	1	3	7	6
3. 聞いたことがあり、多少は内容を知っているが、他者（学生）に説明することはできない。	6	0	14	0
2. 聞いたことはあるが、内容を知らない。	2	0	4	0
1. まったく聞いたことがない。	7	0	0	0

結語文 (concluding sentence)

結語文は、支持文と詳細事項文を書いた後に、トピック文で紹介した筆者の意見や主張と同様の内容を、同義語や語順を替えるなどして、言い換えをすることで、読者に強調して伝える役割がある。事前・事後の自己評価の結果は表5の通りである。結語文についての事前知識や学習経験

は、他のパラグラフの構成要素ほどは、両学部の学生とも少ないようで、「説明することはできない」レベル以下と受講前に回答した人数（A 学部、17名全員；B 学部、27名中21名）は多い。しかしながら、受講後は、A 学部は全員が、「少し説明することができる」と回答し、B 学部も1名を除き26名が「少し説明することができる」と回答した。

表5. 結語文の書き方の習得についての自己評価（度数分布）

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており、その内容を他者（学生）に説明することができる。	0	14	1	19
4. 内容をある程度理解しており、その内容を他者（学生）に少し説明することができる。	0	3	5	7
3. 聞いたことがあり、多少は内容を知っているが、他者（学生）に説明することはできない。	6	0	11	1
2. 聞いたことはあるが、内容を知らない。	2	0	6	0
1. まったく聞いたことがない。	9	0	4	0

結束性 (unity)

結束性は、パラグラフ内で使用されている語句の間にみられる関係性のことであり、トピック文で述べられた筆者の意見や主張によってその関係性は丁寧に結び付けられていなければならない。大学でレポートなどを書く際に、とても重要な要素となるため、本来大学で学ぶべき内容ということもあり、この結束性についての事前知識や学習経験

は両学部ともほとんど無いようである。そのため「説明することはできない」レベル以下と受講前に回答した人数（A 学部、17名中16名；B 学部、27名中25名）は多い。しかしながら、受講後は、A 学部では17名中14名が、「少し説明することができる」と回答し、B 学部も27名中23名が「少し説明することができる」と回答した（表6）。

表6. 結束性の理解についての自己評価（度数分布）

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており、その内容を他者（学生）に説明することができる。	0	5	1	8
4. 内容をある程度理解しており、その内容を他者（学生）に少し説明することができる。	1	9	1	15
3. 聞いたことがあり、多少は内容を知っているが、他者（学生）に説明することはできない。	0	3	10	3
2. 聞いたことはあるが、内容を知らない。	4	0	8	1
1. まったく聞いたことがない。	12	0	7	0

一貫性 (coherence)

一貫性とは、パラグラフ内における論理の展開方法のことを意味する。例えば、意見を述べる形式のパラグラフでは、重要度 (importance) という軸で論理が展開されるため、パラグラフ内で出てくる情報は、あまり重要でないもの (least) からもっとも重要なもの (most) へという順番で記述される必要がある。また、出来事を時系列でまとめる形式のパラグラフでは、古い情報 (old) から新しい情報 (new) へという順番で書かれる必要があり、場所や物を描写する形式のパラグラフでは空間や概念が一般的な

ものや広いもの (general) からより特徴的、限定的なもの (specific) へと記述される必要がある。このパラグラフの一貫性も結束性同様に既習事項ではないので、両学部ともに受講前の自己評価では、「内容を知らない」のレベル以下の回答が目立つ (表7)。A 学部では、17名全員がそのように回答しており、B 学部でも、27名中17名がそのように回答している。ただし、受講後は、両学部とも「少し説明することができる」レベル以上の回答の割合が上がり、A 学部では17名中10名が、B 学部では、27名中24名が、「少し説明することができる」と回答した。

表7. 一貫性の理解についての自己評価 (度数分布)

	2023年度			
	A 学部 n =17		B 学部 n =27	
	前	後	前	後
5. 内容を理解しており、その内容を他者 (学生) に説明することができる。	0	2	1	8
4. 内容をある程度理解しており、その内容を他者 (学生) に少し説明することができる。	0	8	2	16
3. 聞いたことがあり、多少は内容を知っているが、他者 (学生) に説明することはできない。	0	7	7	3
2. 聞いたことはあるが、内容を知らない。	3	0	4	0
1. まったく聞いたことがない。	14	0	13	0

事前・事後のパラグラフ内の使用単語数

授業を受ける前と後で、どのくらいの単語数をパラグラフ内に書くことができるようになったのか、パラグラフ内で使用されている単語数を受講前と後で調べた。なお、スペルミスをしている単語は含まずに単語数を数えることにした。表8の通り、両学部とも受講前と後では、使用単語数に変化が見られた。平均で40語前後の増加がみられ、受講前、すなわち第1回目の授業でまだ何も教えていない時点と期末試験の直前の第14回目との比較では、より多くの単語を使って、英文パラグラフを作成できるようになったことがうかがえる。

表8. 受講前・後のパラグラフ内の使用単語数

2023年度	受講前		受講後	
	M	SD	M	SD
A 学部 (n =17)	62.12	17.57	100.65	18.69
B 学部 (n =27)	69.33	17.93	119.63	21.08

参考程度とはなるが、平均に近い語数で書かれたパラグラフをA及びB学部の中から例として一つずつ選出し、下記に示す。なお、プレ・テスト及びポスト・テストとも同一学生が書いたパラグラフである。

プレ・テストのプロンプト (刺激文・課題文) は、大学生がすべきことという内容で、下記のように英語で指示した。

Direction for Pre-Test

Create a paragraph about the topic that your teacher provides or the following statements: (1)University students should do a part-time job; (2)University students should study abroad at least once before graduation.

ポスト・テストは、大学生が好む授業形態という内容で、次のような指示文を用いて出題した。

Direction for Post-Test

Some students prefer classes with many discussions and group work among students. Other students prefer classes where the teacher lectures and the students study on their own. Which do you prefer? Use specific reasons and examples to support your answer.

以下、A B両学部のプレ及びポストのサンプルを示す。

• A 学部 サンプル (プレ・テスト)

“University students should study abroad at least once before graduation. I have two reasons. First, they can communicate with foreign people. There are international students in my club. But, he can understand Japanese a little. So, I speak Japanese. If I go to abroad [sic. abroad], I must speak English. Second, if you become adult, you

will not go to abroad. There isn't long bacation [*sic*. vacation]. It is difficult to take bacation [*sic*. vacation]. These reasons I agree with the topic." (73 words)

• A学部 サンプル (ポスト・テスト)

"I prefer classes with many discussions and group work among students. First, communication with other students deter sleeping in class. In fact, classes where the teacher lectures and the students study on their own is sometimes become drowsy lecture, when I'm not interested in the content of a lesson. Second, it is more useful to understand the teaching. Especially, to sharing the point that they don't understand is lead to further understanding of lesson contents. Finally, talking is more easier to remember than the writing. Actually, I remember the content of the conversation before three days ago, I don't remember the content of the yesterday lecture. To conclude, I think teacher should increase the opportunity that sharing student's idea." (119 words)

• B学部 サンプル (プレ・テスト)

"I think University students should have a part-time job. The first reason is you can make some money. The second reason is make some friendship. The third reason is that you can study society by meeting people of all ages. The last reason is you can learn how to interact with people. I think university students have a lot of free time, they should make effective use of their free time!" (71 words)

• B学部 サンプル (ポスト・テスト)

"I prefer class with many discussions and group work among students. To begin with, it is important that to learn independent minded for me. Now, Japan attach importance positive learning so, group work can bring up positive learning skills. In addition, discussions and group work can enhance communication skills. If we could bring up communication skills, our daily conversation would be better. Last, students enjoy studying this class. I think discussions and group work is very fun. So, my test score was record-breaking. I accomplished good results in high school final test. To conclude, I want to important class with consultation and talking friends work." (105 words)

両学部のサンプルも、プレ・テスト時点でのパラグラフは、単語数も少なく、またパラグラフ構造という点でも、支持文がなかったり、詳細事項文がなかったり、及第には及ばない。プレ・テストでパラグラフを作成している時の学生の様子であるが、トピックを与えてから30分程度でパラ

グラフを作成するように伝えるのであるが、ほとんどの学生は、10分程度で作成が終了し、何をどのように、どの程度記述したらよいかかわからない感じで、時間を持て余している様子であった。

しかしながら、授業14回目のポスト・テストでは、トピックが与えられてから急に英文を書き出すのではなく、まず、マインドマップを作成し、パラグラフに含める要素を構造化し、自分が考えた意見や主張をサポートするための理由の順番を考え、ファースト・ドラフトを下書き用紙に作成し、推敲してから任意の提出方法(PCで打ち込む、もしくは、提出用紙に手書きで作成する)でパラグラフを作成していた。50分間の試験であったが、ほぼ全員が試験時間を持てあますことなく、制限時間いっぱいまで、推敲を重ねていた様子であった。

内容に関して特筆すべき点としては、トピック文に書かれた主張の根拠となる3つの理由(支持文)に対して、説得力を増すための詳細事項文をそれぞれ付与することができているということが挙げられる。パラグラフ・ライティングにおける結束性の意味の理解は、比較的高度な到達目標であり、このような成果が平均的なポスト・テストの結果のサンプルから見られるということは、有意義なことであると思われる。加えて、一貫性という観点からも、両学部のポスト・テストサンプルからは、1番目の支持文から3番目の支持文の内容を、広い話題(general)から狭く限定的なもの(specific)に順序立てて構成しようと試みており、指導の成果が、ある程度見受けられる。

まとめと今後の課題

本報告では、令和6年度まで実施してきたパラグラフ・ライティングの授業について、その授業内容と、学生の受講前後の自己評価アンケート及び使用単語数から学習成果をまとめた。

あくまで学生の主観ではあるが、学生が実感した学び、すなわち英文パラグラフの構造の理解と、その作成スキルの向上は、自己評価アンケートの結果からも肯定的であると推察できる。

また、受講前後の比較において、1つのパラグラフ内で使用された単語数が、1.5倍から2倍近くまで増加したという点からも、意見や主張をパラグラフの構造や規則に則り、丁寧に説明しようとした様子がうかがい知れる。

以上のことから、大学初年次教育の共通教育の英語として、高等学校までに学んでいない知識とスキルを身につけさせることができたのではないと思われる。この英文パラグラフは、大学在学中のみならず、卒業後も必要となるスキルであるため、汎用的能力の育成という本学の教育方針の一助となりうるものと考えられる。

今後についてであるが、冒頭で述べたように、令和7年

度からは、このパラグラフ・ライティングの授業は整理・統合され、廃止となる。パラグラフの構造自体については、新しく創設されるスピーキング・スキルの育成を中心とした English Communication Strategies という科目の中で、英語によるプレゼンテーションの原稿作成という単元で指導される予定であるので、その中で派生的な流れで簡潔にパラグラフ・ライティングについて理解してもらえるような教材の作成が必要となろう。

なお、今日的な課題とはなるが、コロナ禍後に顕著である時代の流れとなったことの一つに、Chat GPT® や DeepL® などの AI を搭載した文章作成及び翻訳・添削オンラインツールが一般的となり、各段に精度の高い英文パラグラフが自動、ないしは、翻訳だけで作成できるようになったことが挙げられる。日本語の言語的特徴のせいもあり、機械翻訳では日本語から英語への名詞の複数性の再現には課題があるとの研究（西谷・中崎, 2023）もあるが、これらの技術が英語のライティングの指導と評価に今後相当なインパクトを与えることは想像に難くない。これまで期末試験で辞書の使用を可とする方針を採用してきた本学の英語教育であるが、AI を搭載した、単なる辞書を越えた性能の翻訳ツールの利活用を考慮した英語のライティング指導を構築する必要があるのか、結論には至っていない。令和7年度には、英語のライティングの授業が、共通教育の基盤科目からはなくなるが、発展科目としては、2回生以上を対象とした選択科目では、アカデミック・ライティング等が残ることになっている。授業の到達目標とその指導法のアップデートが急務である。

付 記

本研究の実施に際し、愛媛大学教育・学生支援機構研究倫理委員会の承認を受けた（受付番号21-001；課題名「パラグラフ・ライティングにおける指導法の効果の検討」）。

引用文献

西谷工平・中崎崇（2017）. 「機械翻訳における日英の複数性をめぐる一考察」『大学英語教育学会 中国・四国支部紀要』第20, 17-35.